

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム菜の花 上野幌館1階	評価実施年月日	平成20年3月21日
評価実施構成員氏名	福元健史、辻内澄子、河野裕子、伝法谷真寿美、小西恵江子、新貝真貴子、長嶋とよ子、高カルミ子		
記録者氏名	福元 健史	記録年月日	平成20年2月28日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>ホームの理念の中に「地域とのふれ合いを大切にした暮らし」「住み慣れた地域での生活を笑顔で送れるよう支援します」を掲げホーム内に掲示している。スタッフは常に確認できるようにしている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>スタッフルーム及び廊下に理念を掲げ、更に名札の裏側にも入れていつでも確認できるようにしている。</p>	○	<p>ユニット会議及び朝のミーティング時に理念に沿ったケアができているかスタッフ間で確認していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>ご家族様には、入居時の契約の際に理念を説明し、面会時も分かるよう廊下に掲示している。又、運営推進会議等で地域の方々にホーム理念を説明している。</p>	○	<p>町内会の回覧板に載せてもらいグループホームについて説明させてもらっている。また家族会にて理念について再度説明し理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>散歩時に近所の方と挨拶を交わしている。またボランティアに来ていただき入居者様のお話相手やホームの庭の手入れをしていただいている。</p>	○	<p>近所の幼稚園の慰問や津軽三味線の演奏会・老人クラブの日本舞踊など近隣の方がホームを訪れる機会が多い。今後は、反対に町内会行事に参加できるよう努めたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>第二自治会長様の呼びかけで福祉会館でのカラオケ会に参加させてもらっている。</p>	○	<p>町内の夏まつりには参加させてもらっているが、準備の段階からお手伝いの要請をされた場合、参加できていないため今後は、準備の段階から関わりを持ち取り組んでいきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>ホームヘルパーの実習やボランティアを受け入れている。又、地域の回覧板にて当ホームの入居以外の介護相談を受け付けている。</p>		<p>近所の方が介護保険制度についての仕組みを聞きにきたり電話での問い合わせがある。様々なケースに対してアドバイスをしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>スタッフに自己評価表を配布し記入してもらい、その後話し合いを行い自己評価に取り組んでいる。</p>	○	外部評価の意義や結果をスタッフに報告し、ケアの質の向上のためにも今後も継続的に取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し町内会、地域包括支援センター、入居者様ご家族から意見をいただきケアサービスの向上に反映している。</p>	○	町内会女性部の方やボランティアさんなど他職種の方も参加していただけるように働きかけていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>介護保険事業指導係に制度上の疑問点を聞いたり、提出書類等について相談するなど連携を取っている。</p>	○	札幌市主催の管理者会議を利用して疑問点・問題点・要望などを伝えていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>介護事業部長が指導係をしており、成年後見人制度や権利擁護に関する制度について研修を受けている。又、実際にご家族から相談を受け成年後見人制度を活用している入居者様もいる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待に関する研修に参加している。ホーム内での虐待や身体拘束は一切ない。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>本社の職員と一緒に入居者様ご家族が納得していただけるよう説明している。解約する際はご家族と十分に話し合いをし納得していただいている。</p>		入居後に医療行為が必要になってしまった方には、何度も病院にお見舞いに行き担当医の説明をご家族と一緒に同席させてもらい、十分検討した上で納得していただき退去されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の意見・不満・苦情については、申し送りやユニット会議で改善に向けて検討している。又、職員では対応できない問題が発生した場合はご家族にも協力をしていただいている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に健康状態や受診結果等を報告している。また菜の花新聞を通じて行事や日々の様子も伝えている。金銭管理については、個人出納簿で出、入金の内容を毎月家族に郵送している。	○	入居者様の暮らしの様子を月1回、職員の手書きのお便りで報告していきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催、ご意見箱の設置、苦情相談の担当者を掲示している。苦情については、ミーティングや会議で検討し、本社にも伝え家族様への早急な対応と改善に努めている。運営推進会議にご家族代表の方より家族としての意見を聞いている。		菜の花の他館で苦情が発生した場合は、会議等で報告し合い当ホームで同じようなケースの苦情がないよう努めている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議を行ないスタッフの意見や要望を聞き検討している。又、介護事業部長が定期的に当ホームに来てスタッフの意見や提案を面談で聞く機会を作っている。	○	全職員にアンケート調査を実施しスタッフの意見や提案を聞く機会となった。またアンケート調査結果を運営推進会議に反映させていく取り組みを行なっている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様の状況や体調、レクリエーション等必要な時間帯に職員が確保出来るよう勤務調整を行なっている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新入社員は、早く顔と名前を覚えてもらえるように入居者様に紹介している。更に入居者様と関わりを持ち、時には入居者様にホームの事を教えてもらうこともある。異動や退職がある場合は、入居者様についての引継ぎを徹底して実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>昨年、11月・12月で厚別区内のグループホームの見学会を行い、他ホームから見学者を受け入れたり、逆に見学させてもらい交流を深めている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>全職員に向けてストレスに関するアンケート調査を実施しその結果を踏まえてストレス軽減に向けて改善を図っている。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>介護事業部長が定期的に当ホームに来所し、スタッフの業務の成果を把握し、必要時は面接も行っている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>入居前にご本人と面談させてもらい意向や不安点を傾聴し安心して暮らせるよう説明を行なっている。又、基本的には当ホームに見学に来ていただき、ここで生活を送るイメージを持ってもらい納得した上で入居していただいている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>ご家族様の不安や要望・意向など面談を通じて聞きその都度解消している。又、話づらいデリケートな問題もあるため入居前に生活シートを渡し、書面にて要望や意向を記入していただいている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人にとって家族にとって最善の環境、サービスを本人、ご家族の立場に立って対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学に来て頂いたり、レクリエーションに参加してもらったりホームに馴染める環境を作っている。又、体験入居を実施しており短期間当ホームで生活を送ってもらいそれから入居されたケースもある。		希望者には体験入居ができるシステムがある。実際に体験入居されてから当ホームで生活を始めた方もいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様と一緒に過ごす時間を共有し、掃除や調理、味付けなど入居者様に教わる事が多い。共に家族として生活しているという視点で暮らしが出来るよう努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様との連絡は常に行い、入居者様の日常生活や健康状態、定期受診の結果など面会や電話にて報告し情報を共有している。また敬老会やクリスマス会等行事にも参加していただき喜怒哀楽を共にしている。	○	室内でのイベントには、ご家族様に足を運んでもらっているが、今後は外出行事にも多くのご家族様が参加していただける工夫をしていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日々の様子を面会時に報告させてもらっている。又敬老会やクリスマス会・誕生会の時には多くのご家族様が参加して下さっている。又、定期的に外出される利用者様もいる。		お正月やお盆の時期などご家族と一緒に過ごせるよう努めている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	古くからの友人や親戚等関係が途切れないうお手紙や年賀状を出す為の代筆や電話連絡などの支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の人間関係を見極め、仲良く会話ができるようスタッフが橋渡しの役割を担っている。又、レクリエーション活動を通じてスムーズに会話ができるよう働きかけている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	解約されたご家族より知人が介護の事で悩んでいるので相談に乗って欲しいと何度か訪問されている。その都度アドバイスをしている。	○	解約されたご家族とは挨拶や相談に応じたりしているが、行事等の参加、連絡は行っていない為参加していただけるよう取り組んでいきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中でどの様に暮らしたいか本人の希望を聞いている。特に入浴時や夜間など一対一で向き合って話せる時間を大切にしている。意思疎通が困難な方には、ご家族様に聞いたりご本人の置かれている状況から把握し入居者本位に検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にセンター方式のAシートをご家族様に記入していただいている。又本人・ご家族・担当のケアマネージャーから生活歴、サービス利用等の聞き取りに努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式でアセスメントをして「出来る事」「出来ない事」を把握し、生活リズムや身体状況を多面的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員全員でモニタリングを実施し課題や改善点があればユニット会議等で話し合いし介護計画に反映させている。又、本人・ご家族様や主治医などから話を聞き介護計画に反映し作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月ごとの見直しや評価を行なっている。また期間に関係なく状態変化時や退院時などの変化が生じた時にも介護計画の見直しを行なっている。	○	朝の申し送りは毎日実施しているが、その中で介護計画についての話も盛り込んでいきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々個人記録身体状況・生活の様子や言葉など記入し介護計画や実践に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	定期受診の送迎や突発的な受診はご家族に連絡した上でスタッフが対応している。また買い物に行きたい、ドライブに行きたいなど要望には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の協力の下、年に2回消防訓練を実施している。町内のボランティア活動として毎月津軽三味線の演奏会を行なってもらっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者様の希望により訪問理容を月1回利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの所長が参加しているため、そこで地域の情報交換や協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所の協力医・及び訪問診療に依頼し二週間毎に往診に来て頂いている。また二十四時間主治医と連絡が取れる体制を作っており特変があった場合は、主治医に連絡し指示に従って健康管理を行なっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医と連携を取りながら指示・助言を受け支援を行っている。認知症専門医の受診が必要な時は専門医の診療を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週一回訪問看護師が来て入居者様の健康チェックとスタッフの入居者様に関するかわり方の相談に乗ってもらっている。入居者様に異変があった場合は訪問看護師に相談し、指示を受けている。定期訪問以外でも必要時はホームに来て様子を見てくれるときもある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人の情報を病院に提供し、ご家族と連絡を取りながら回復状況等を話し合っている。担当医の病状説明についても同席させてもらい、早期退院ができるよう支援に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入院時に重度化した時の対応方針について説明し同意を頂いている。入居者様が重度化した場合は、ご家族や担当医と話し合い方針を決めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご入居者様が最期までホームで生活できるようにご家族・訪問看護・主治医と相談し、ホームとしてできる事、できない事も含め相談している。	○	重度化しても質の高いケアが保たれるようスタッフの資質を高めるための育成を行なっていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>別の住居へ引越される際は、プライバシーには十分配慮し介護計画やアセスメント表をお渡しし、次の転居先で円滑に生活できるよう支援している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>スタッフは本人に関する事はご家族だけに話している。また秘密保持についてはスタッフ間で徹底している。(入職時、個人情報の守秘義務については契約書を取り交わしている。)個人記録は他者に見られないようスタッフルームに保管している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>意思表示困難な入居者様については、表情の変化などからくみ取り入居者様が決定できるよう努めている。また起床時の衣服も選んで見てもらったりが外食などの行事の時は、メニュー表を見ていただきお一人おひとりで決めていただいている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者様が過ごしやすいように、外出や買い物に行けるように勤務調整し職員を確保している。また買い物や外出の申し出がしやすい雰囲気作りをしている。また室内でもゆったりと自分の趣味活動ができるよう環境にも配慮している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人に確認しカットやパーマ・毛染めが希望通りできるよう毎月尋ねている。又化粧をしたり指輪をしたりアクセサリーを身につけている人もいる。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>栄養士が栄養面を考慮した献立を立ててるが、入居者様に希望を聞いて希望を栄養士に伝え献立に取り入れている。また食事の際は職員も一緒にテーブルで食事を摂っている。又、一緒に準備をしたり配膳や後片付けも行なっていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者様の嗜好については把握しておりコーヒーが好きな方やかりん糖や黒飴が好きな方等好きなものをその時々食べて頂いている。タバコについては、ドクターストップがかかり吸っていない方がいる。その他の方は元々吸う習慣が無い。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄については、排泄チェック表を作り、失禁した際は記録し排泄のパターンを把握した上でトイレ誘導を行い排泄していただくよう支援している。また入居者様のシグナルやサイン、意思表示した時は速やかに対応している。	○	トイレ誘導に強い拒否を示す入居様がおり、なかなかトイレにて排泄できず尿とりパッドの交換のみとなっている。拒否されない対応方法を更に検討していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴する際は、本人の希望を聞いてから入浴していただいている。洗身についても納得されるまで洗っていただき、湯船もゆったり浸かっている。また、本人の希望から入浴日を決めている方もいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安眠できるよう日中は趣味活動や体操をしていただき昼夜逆転しないよう支援している。またゆったりくつろげるようリビングにソファを置いている。夜間眠れない方はドクターに相談したり、ホットミルクやお話を聞いて本人が安心できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様に出来る事、掃除や洗濯たたみ、調理の盛り付けなどお手伝いをお願いし、ここでの役割を担っていただいている。また、献立の希望や外出行事なども入居者様の希望を聞いて実施している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談し、金銭管理している方もいる。買い物の際はスタッフと一緒に行きお金を支払っていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や気温が良い日は散歩や外出・買い物に出かける事が多い。外食ツアーやイチゴ狩りなど外での行事も企画している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事を多く取り入れており、よさこい見学やイチゴ狩り・外食ツアーなど外出の支援をしている。	○	外出の機会が多いがご家族をお誘いしての企画はないため今後はご家族にも声をかけ入居者様との時間を一緒に共有したい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人が電話をかけたいとも申し出があった場合は、いつでも速やかに対応している。また手紙の代筆を頼まれる事もあり行なっている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様が気軽に面会に来れるよう訪問時間は定めておらず仕事の帰りやご家族の都合の良い時間帯に来ていただけるようにしている。又、お茶を出しゆっくり過ごしていただけるような環境作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は一切していない。社内研修で身体拘束防止についての研修を全職員が受講している。また言葉遣いも気をつけ言葉による拘束がないか会議やミーティングで検討している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中(9時~18時)は玄関に鍵をかける事なくケアに取り組んでいる。スタッフ間で連携を図り見守りを行い、入居者様が一人で外へ出る事のないよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はリビングで過ごされている時は見守りし、居室にて過ごされている時は、定期的な巡回を行なっている。夜間帯にかんしては、全員の状況を把握し離床された時はすぐに対応できるように全居室が見渡せる場所で待機し入居者様の安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物は危険防止のため保管場所に鍵をかけている。(漂白剤や包丁など)薬についてはスタッフルームに保管して施錠している。異食の可能性のある入居者様については置き場所に注意している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりはつと報告書や事故報告書をスタッフ間で話し合い、事故の原因をさぐり再発防止に努めている。事故防止のためマニュアルを作成し、さらに社内研修で事故防止について知識を学んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルを作成して目の付く場所に掲示している。また救急救命の講習会にスタッフが参加し、参加していないスタッフも伝達講習で教わっている。ただし実際対応できるかは不安である。	○	社内研修や会議などでも緊急時の話し合いを行なっているが、緊急時は慌ててしまい動揺することもあるため、更にトレーニングを積んでいきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急連絡網を作り目の届く場所に掲示している。又、年に二回消防訓練を行い、消防署のご指導も受けている。近隣の民生委員に何かあれば駆けつけると言われている。	○	運営推進会議の中で災害時等に近隣の方の協力を民生委員を通じてお願いしているが、近隣の方の連絡網はまだ作成されていない。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状態が落ちた時や退院後はご家族にすぐに連絡し起こりうるリスクについて検討している。(ベッドで体動が激しく転落の危険がある方は介護ベッドのベッド柵のついたものに変更したり事故になる前に予防策について話し合っている。)		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に観察を行い、異変に気付くよう心がけている。またバイタルが正常値にあってもいつもと様子が違う時は記録し訪問看護師に相談したりかかりつけの主治医に報告し指示を仰いでいる。またミーティングで話し合い情報を共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	病院に受診した際は処方された薬をスタッフが把握できるよう個人ファイルに入れている。また新しい薬は副作用がでないかきちんと確認し薬の効き目を観察している。	○	薬については、誤薬がないように名前・日付・何時の薬かを確認した上で服薬してもらっている。また服薬後は、服薬させたスタッフがチェック表にサインをしている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個人排便表を作成し便秘はないか逆に下痢や軟便はないか確認している。特に下剤を服用している入居者様は、反応便はあるか確認している。又、朝は必ず牛乳を飲んでいただき水分摂取量も1500Cccを目標にしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを行なってもらっている。義歯については毎日入れ歯洗浄剤で除菌している。	○	社内研修でも口腔ケアの重要性を伝えスタッフ間の理解を得ている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量については毎日集計し記録している。少ない方は好みの飲み物やお茶ゼリーなどを作り工夫して摂取していただいている。食事については、栄養士がカロリー計算された献立を作成しバランスよく摂取していただいている。	○	食事量の少ない入居者様もいるため毎食食事摂取量を記録している。また摂取量の少ない方については、栄養補助剤などで栄養のバランスを摂ってもらっている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成している。インフルエンザワクチンも入居者・職員全員が接種している。スタッフ・入居者様、ご家族様の来館時には手洗い・うがいの徹底更に次亜塩素酸ナトリウムによるドアのふ、手すり等館内の清掃を行なっている。又、手拭きもペーパータオルを使用している。	○	ノロウイルスやインフルエンザ流行時期は介護事業部長が各館を回り徹底されているかチェックをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具類は毎日消毒している。食材は賞味期限、消費期限の早い物から使用し、一般の中国産の食中毒の問題の際も迅速に食材をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関先には親しみやすい表札を工夫している。更にスタッフの顔入りのプレートも掲示し分かりやすい雰囲気を作ってる。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に合った装飾をしている。行事の写真や入居者様で作成した作品を飾り落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングのテレビの前にソファを設置しくつろげるスペースを作っている。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	自宅で使われた馴染みの物(ベッド・タンス・仏壇等)を持ってきていただいている。アルバムを持って来ている入居者様もおり時折鑑賞されている。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	リビングの清掃中の際には、窓を開け換気に努めている。各居室も入居者様がリビングで過ごされている時に換気に、居室の温度が急激に下がらないよう配慮している。又、リビングは温度・湿度を見ながら加湿器を使用し、居室はぬれタオルを活用し湿度は適切になるよう工夫してる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下や浴室・トイレ・階段とあらゆる場所に手すりが取り付けられているので、安心して生活できるよう工夫されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	基本的には、ご本人に何でも行なってもらうようにしている。その際できない時や混乱が生じたときは、初めてスタッフが一部介助または介助を行ない職員がその方に応じた支援を行なっている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植えたり、畑を作り収穫して、調理にも使用している。また天候の良い時は、散歩に行ったりし外の景色を眺める機会を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ゆったりと自由に過ごせるよう、日中は個人を尊重しそれぞれの活動を行っており家庭的な雰囲気を作っている。(テレビを見たり、趣味活動をしたり、居室でくつろいだり、お手伝いをしてもらったり)また、行事に力を入れておりイチゴ狩りや外食ツアーややさしい見学など入居者様に希望を聞いて実施している。町内会の回覧板にボランティアを募集した所、問い合わせがあり傾聴ボランティアや津軽三味線を演奏してくれる方、新さっぽろ幼稚園の慰問など定期的にホームに来てもらっている。又、敬老会やクリスマス会など館内の大きなイベントには町内会の老人クラブ(どんぐりの会)の皆さんが催し物を披露してくれ徐々にではあるが、当ホームを地域の方に認識してもらっている。